

# 紙芝居による要援護者とのリスク コミュニケーション

NPO法人防災白熱アカデミー

## チャレンジ事務局意見

- 上演先の開拓法は？その後の対策は？
- 紙芝居に多彩な内容必要
- 合理的・科学的研究である
- 高齢者とのリスクコミュニケーションのむつかしさ。(若い時の経験、頑固、体力がない自覚)
- 問題提起と具体化必要
- 一日前プロジェクトとは？高齢者の体験
- 具体的な実践計画必要
- なぜ東日本を紙芝居にするのか？高齢者・支援者が必要となる資料とは何か？プランの検証・評価・適用が必要、あたらしいプランを提案せよ。
- 紙芝居も良いが、体験された人との対話がよい

# 防災教育の手法

- 座学（講義、講演、セミナー、研修、PPT・DVD、など）
- 現場・机上訓練（教育機関、行政組織、会社組織、地域、コミュニティ、記念館見学、行事参加、現場訪問、など）
- 演劇・芸能（舞台、落語、漫才、腹話術、紙芝居、など）
- ITの応用（ ネット、GPS, GIS, など）
- ゲーム（かるた、トランプ、クイズ、漫画、防災おもちゃ、など）

## 紙芝居とコミュニケーション

- 紙芝居では、演じ手（一人）と観客（複数）とが向き合い、実演を通して直接交流することにより盛り上がる。演じ手は観客の反応を見ながら、絵の引き抜き方、声色、台詞回しなど演じ方を自在に変える事もできる。この**双方向性と一体感**は、テレビなどの一方通行のメディアでは得られない紙芝居の特質

## リスクのメッセージ

リスクメッセージとして表現する主な事項を以下に示す。

- ① 関係するリスクの説明
- ② リスクの要因と考えられる事象の現状
- ③ リスクに関する外部（専門家等）の意見
- ④ リスクへの対応
- ⑤ 地域の協力
- ⑥ 地域からの要望の受付窓口
- ⑦ その他

## リスクとランク

ランク	比較対象
受け入れられやすい	同じリスクの比較（時間が異なる）
	基準との比較
	異なったリスク評価の比較
受け入れられる	コントロールされていないリスクとされているリスクの比較
	解決法が異なるリスクの比較
	場所が違う同じリスクの比較
あまり受け入れられない	平均リスクとピークリスクの比較
	1つの汚染源からのリスクとすべての汚染源からのリスクの比較
かろうじて受け入れられる	リスクとコストの比較
	リスクと利益の比較
	職業リスクとの比較
	発生源が同じで異種のリスク比較
	同じ病気を引き起こすリスクの比較
ほとんど受け入れられない	まったく関係のないリスク比較

J. Petts: Risk communication and environmental risk assessment, 1994

## リスクメッセージの評価

### ① 評価方法

アンケート調査、ヒアリング調査、その他

これらの調査は時間を要するために、簡便法として

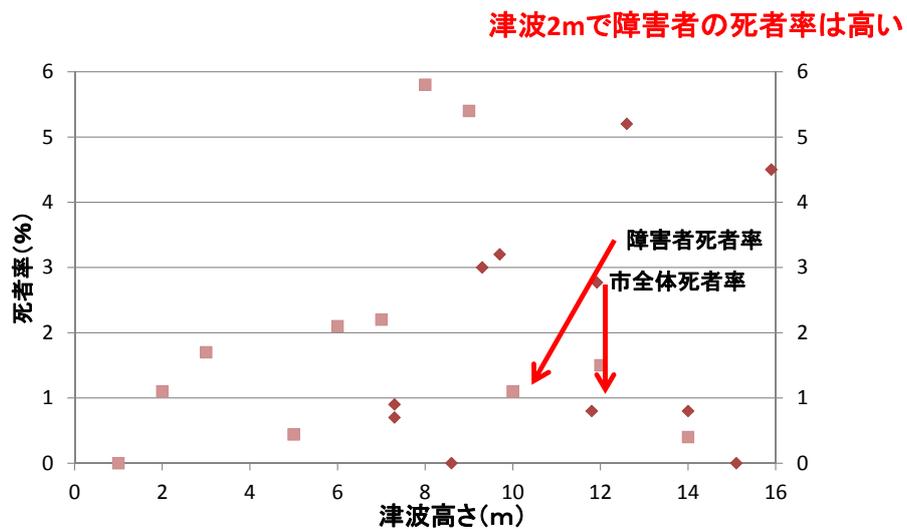
リスクコミュニケーション実施前後の問合せ件数、内容の比較で評価する。

### ② 評価項目

リスクコミュニケーションの効果を把握する項目を設定する。

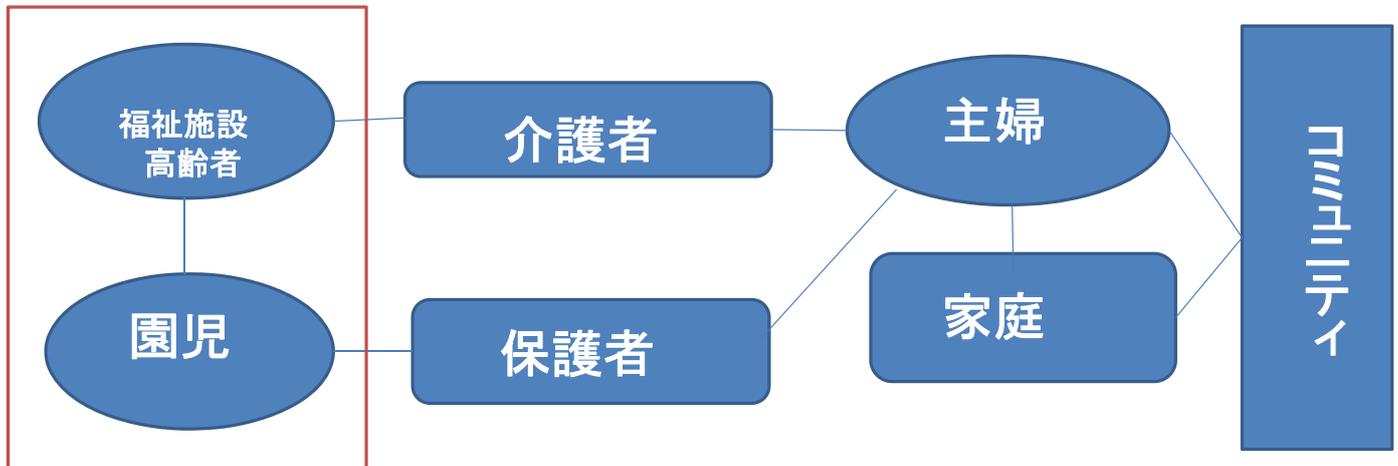
- ・リスク低減について
- ・リスクメッセージについて
- ・参加者の対応について

## 東日本地震障害者津波死者率



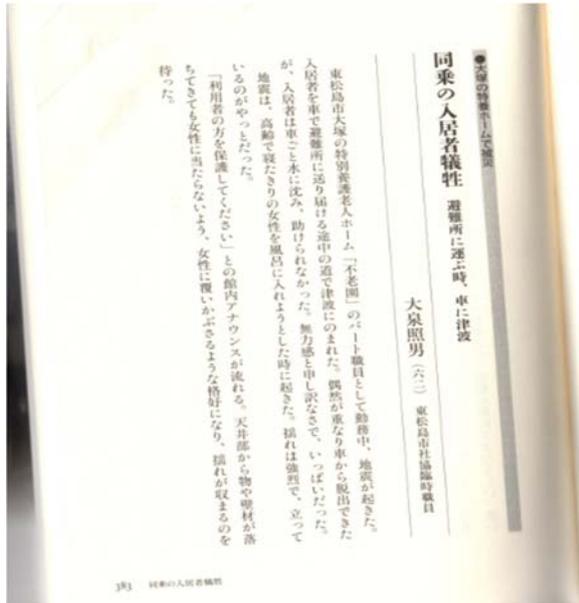
災害弱者を家庭・地域・防災組織でいかに守るか？  
～高齢者・弱者の自助と協助～

# 要援護者・家族・コミュニティとの防災リスク対話



## 高齢者と防災

- 災害弱者としての高齢者の自助・協助・公助のあり方を考える
- 小中学生への防災教育との違い。多くの経験を経てきている高齢者
- ローテク(紙芝居)による納得、対話の防災自覚を目指す
- 東日本地震から学ぶ,神戸地震との相違



ストーリーからヒヤリハットシーンを探す。

**特別養護老人ホームからの脱出!**

平成23年3月11日 大泉昭夫さんの証言

NPO法人防災白熱アカデミー  
神戸市危機管理室



皆さんは、神戸の大地震を体験されましたが、津波は経験ないでしょう？

私は当時、和歌山に住んでいて、昭和南海地震を体験しました。





テレビから流れる緊急地震速報を音を始めて聞きました。

紙芝居に出てきた“お・は・し・も”って何だったでしょう？

**～希望と絆の語り～**  
**神戸地震の被災者と長洞仮設の皆さんとの集い**

**日時：平成 26 年 3 月 17 日（月） 10:00～12:00**  
**場所：長洞仮設住宅**

行事：

1. 神戸地震被災者の生活復興体験 20分  
河野光恵さん（神戸市）
2. 長洞仮設の現在 20分
3. 防災講演
  - ・大船渡市立吉浜中学校防災プロジェクト 岩崎副校長 15分
  - ・神戸震災からの復興～1被災者の体験～高田至郎 神戸大名誉教授 15分
  - ・神戸震災と東日本震災が意味するもの 神戸高専名誉教授 嵯峨 貴 15分
4. 懇談会

神戸・関西の地域から約 20 名が、NPO 主催の第 2 回東北震災学習ツアーで大船渡を訪問いたします。この機会に、長洞仮設の皆さんと震災体験を語り、先生方にも地震防災の話を聞き、また終了後に、懇談の場を持つ予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。




共催：長洞仮設住宅自治会、大船渡コールセンター、NPO 法人防災白熱アカデミー  
 連絡先：Tel:078-766-7677 Fax:078-761-0626、090-5894-5821（高田）  
[http://www.kcc.zaq.ne.jp/dfgym204/npo\\_hp/](http://www.kcc.zaq.ne.jp/dfgym204/npo_hp/)



防災の学びの場  
防災カフェプログラム

素晴らしいコーディネートあります (KCC上島園地協賛)

参加  
無料

## 第3回 語り部会 ～希望と絆の集い～

日時 平成26年 8月30日(土) 14:00～17:00  
場所 神戸市危機管理センター

◆◆◆◆◆ プログラム ◆◆◆◆◆  
司会: 今中利信

14:00～14:45  
講演 東日本大震災被災体験 松木弥恵さん  
東日本大震災後の防災対策 東北大学災害科学国際研究所 教授 佐藤健氏

14:45～15:30  
防災紙芝居「いなむらの火」「津波からの生還」 大塚真子氏  
防災ナレッジ・グランプリ ～嶋嶋見先生と防災を学ぼう～

15:30～16:00  
ピアノ演奏と復興ソング 歌唱 井上今日子(声楽家)、ピアノ伴奏 今中昭子  
♪「花は咲く」♪「しあわせ運べるように」他 練習しながら楽しく合唱しよう

<休憩>

16:00～17:00  
南海道地震に備えよう～座談会～  
東日本大震災被災者 松木弥恵さん  
阪神・淡路大震災被災者 河野光恵さん 太田敏子さん  
東北大卒 教授 佐藤健氏  
コーディネーター: 大阪産業大学 教授 中野雅弘氏

〒650-0047 神戸市中央区南長狭3-1-1  
神戸市危機管理センター  
※公共交通機関をご利用ください。

西宮東部の様子

主催 NPO法人防災自然アカデミー  
共催 神戸市危機管理センター  
連絡先 TEL:078-766-7677 FAX:078-761-0626  
[http://www.kcc.zaq.ne.jp/dfgym204/npa\\_hp/](http://www.kcc.zaq.ne.jp/dfgym204/npa_hp/)





## 防災クイズの問題と回答(○、×)

- 
- 1、参加部門( ) 下記の番号を記入して下さい。
- 1、小学生の部 2、成人の部(中学以上)3、シニア(65以上)
- 2、ご氏名( 、 歳)

神戸語り部会

問題	防 災 ク イ ズ	回答
1	テレビで「緊急地震速報」が！まず身を守るためとっさに机の下に隠れました。 ○でしょうか？×でしょうか？	
2	家にいて大地震が起きました。まだ揺れはおさまっていませんが、最初にガスの元栓を締めに行きました。 ○でしょうか？×でしょうか？	
3	子供だけでお家にいるとき大きな地震。お父さんもお母さんにも連絡がとれないので、急いで避難所に行った。 ○でしょうか？×でしょうか？	
4	外にいる時に地震が起きました。ガソリンスタンドの近くにいたので、あわてて走って逃げました。 ○でしょうか？×でしょうか？	
5	スーパーマーケットにいる時に大地震がきたので、買い物かごをかぶってうずくまりました。 ○でしょうか？×でしょうか？	

問題01～05

採点1 ( ) 問正解 /5問中

## 防災クイズの問題と解答

神戸語り部会

- 第1問;テレビで「緊急地震速報」が！まず身を守るためとっさに机の下に隠れました。
- ○でしょうか？×でしょうか？ ○ 震度6-7クラスでは、全く何もできません、中越地震のときどうでしたか、下手に動いてケガをしないように、机の下などに身を隠して、揺れの収まるまで待ちましょう。家族を置いて自分だけで飛び出すのはやめましょう、家族が非難します
- 第2問;家にいて大地震が起きました。まだ揺れはおさまっていませんが、最初にガスの元栓を締めに行きました。 ○でしょうか？×でしょうか？ ×
- ①ガスの元栓を締める ② ドアや窓を開けるなどは、震度6-7クラスでは、全く何もできません、まず机の下などに身を隠して、揺れの収まるまで待ちましょう。
- 第3問;子供だけでお家にいるとき大きな地震。お父さんもお母さんにも連絡がとれないので、急いで避難所に行った。 ○でしょうか？ ×でしょうか？ × お父さんやお母さんがいないときも慌てずに、近所の大人の言う通りにしよう。まずは安全な場所に移動してからお父さんとお母さんに連絡しよう。

サイエンスカフェ 明石町内会



サイエンスカフェ  
山梨生涯学習センター



サイエンスカフェ・北京科学技術大学2014.9.12



庄屋さんは、地震の後に大きな津波が来るということが何故分かったのですか？



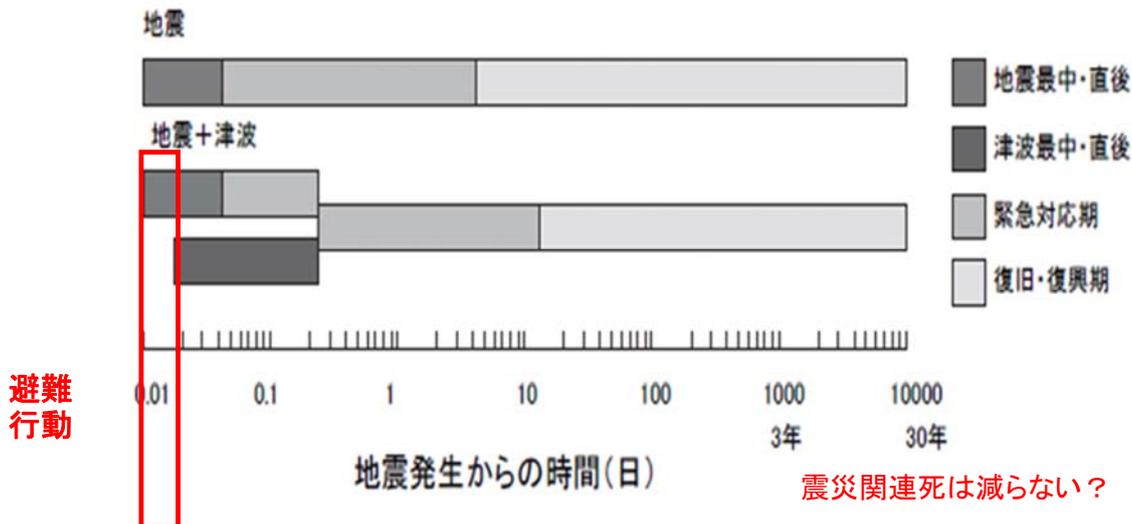
## 紙芝居作成のための被災幼稚園ヒヤリング

ヒヤリング内容	S幼稚園	T幼稚園
園舎などの被害状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30cm浸水、周辺道路は1m 浸水、園庭は周辺より高くしてある。事務室は10cm浸水</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園舎の床上10cm浸水</li> </ul>
園児の安全確保、引き渡し、安否確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・14:00に園終了(地震は14:46)、送迎バスで帰宅中。</li> <li>・預かり児童20名は、5名の先生と園庭で避難。</li> <li>・近くの中学校屋上へ避難(15分、通常なら5分)、地域住民も同所に避難してきた。</li> <li>・理事長自宅は壊滅。</li> <li>・降雪で教室内に入れてもらった。</li> <li>・親に引き渡しできず中学で泊ったのは5~6名。</li> <li>・中学の生徒は園児の世話をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・14時終了で大半の園児が帰宅。</li> <li>・20人近くが、5名の職員と園内にいた。地震後園庭に避難。</li> <li>・情報がなかった。地域のスピーカーも聞こえなかった。</li> <li>・15分ほどの小学校へ避難。水に濡れずに避難できた。</li> <li>・園長は園にとどまった。その後、消防の指示で避難。膝上まで浸水して小学校まで行けずにマンションに避難。</li> <li>・4人がその夜も小学校。</li> </ul>
避難訓練・避難マニュアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から中学校への避難は訓練していたが、訓練について中学校との連携はない。親にも説明していた。</li> <li>・マニュアルの見直しを行っている。親に引き渡すのを第1優先に考えていたが、親と子がでんでんこに避難するのが良いと考えている。</li> <li>・避難のバリエーションを考慮している(徒歩、送迎バスなど)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園外への避難を検討、歩行困難な園児もいる</li> <li>・保護者の避難には園は関与しない</li> <li>・震災後、お迎え訓練をした。</li> <li>・仙台市の総合訓練にも参加している。</li> </ul>
幼稚園の再開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相当数の園児が自宅を失った。生徒数は減った。当時の園児はいない。</li> <li>・4月12日に入園式。50名予定が20名に。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月10日に入園式。4月25日頃に園児迎えができた。</li> <li>・NTT、電力会社に再開の交渉に東奔西走した。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の母親が食替えに来る途中で亡くなった。</li> <li>・帰宅後に亡くなった園児がいる。</li> <li>・誰も待たず、後戻りせずに避難することが大事。</li> <li>・数百年後にもこのことを伝えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害に対する緊張感が大事。</li> <li>・震災後はラジオを活用することになった。情報を待つのではなく、自ら避難行動するように指示している。</li> </ul>

## 教訓

- ・子供はテレビを見るなど様子はよく知っている。これからどんなことが起こるのか子供はよくわからない。
- ・園に来れば、子供は先生を絶対に信頼している。恐怖で混乱することはない。先生が自信を持って行動することが大事。
- ・園では津波の話はしない。
- ・園内避難だけの訓練ではだめである。歩けない子供もいる。年長児はわかる。年少児の手を引いて避難。地域での訓練が大事。仙台市の協力。積極的に地域訓練に参加する。
- ・地域で温度差がある
- ・大丈夫だろうというのがいけない。さわぎたてるのもよくない。子供たちはよくわからない。
- ・教師が常に緊張して構えるのが大事。1～2年経つと忘れる
- ・地震津波は必ずある。ピクピクしてはいけいない。
- ・ラジオは直ちに付けること。地域拡声器の充実が必要。
- ・自分から逃げる体制を作ること。
- ・園と家庭の連携が大事。迎え訓練が必要。働いている母親もいる。
- ・幼稚園に、避難に際して張り紙をしたのが良かった
- ・子供を安全な場所へ。家族が巻き込まれるのは園は関与しない。親の避難は親に任す。
- ・子供が家庭に戻って犠牲になったケースも多々ある。
- ・父兄は園のやり方に賛同している。事前に避難訓練していたのがよかった。犠牲者がいない。
- ・開演後に子供たちの変化は見られない。

## 地震・津波の時間差複合災害と対応プロセス



## まとめ

- 要援護者(高齢者、園児)との地震防災に関わるリスクコミュニケーションの手段として、紙芝居を利用している。
- 紙芝居は双方向コミュニケーションとして利用しやすい。ローテクは要援護者に受け入れやすい。
- 紙芝居聞き手の震災体験披露は、他の聞き手に多くの影響を与える。
- 新たに知った防災知見の、反覆・復唱は身につけやすい。
- 話し手と聞き手が、同様な経験を経た場合はコミュニケーションが取りやすい。
- 一般的な防災知見は置かれた状況によって正しくない場合がある。なぜ、どうして、という対話が大切である。
- 紙芝居製作のため東日本地震での園児の体験のヒヤリングを行い、リスクを探す。

ご清聴ありがとうございました。